張愛玲の後半生米国在住期（1955―1995 年）における執筆活動と生活背景：病弱な健康状態と清貧な生活スタイル

Eileen Chang's Later Years in the U.S.（1955–1995）：Her Writing, Health, and Frugal Lifestyle

鈴　木　基　子

Abstract:

Two volumes of books comprising 700 letters and 988 pages of correspondence between Eileen Chang and both Stephen Chi Soong and Mae Fong Soong were published in 2020 by Crown Publishing. These books decipher the life of Chang, who lived as a refugee in the U.S. for 40 years from the age of 35, and provide a comprehensive view of her physical and mental health as well as her economic and living conditions.

This research aims to deepen the understanding of her lifestyle and literary background, further enhancing the evaluation of her works and life, based on latest references. The author categorizes Chang's life in the U.S. into five distinct periods, detailing them according to her writing, health, and financial status. The conventional theories have been partially revised to indicate that Chang provided financial support not only to her aunt, but also to her brother. Other parts support Kefeng Wei's new analysis, indicating that Chang's longstanding illness and skin conditions caused by insect bites may be explained by Rickettsia.

These facts will help to further clarify Eileen Chang's lifestyle, including her health and the background of her works, hopefully leading to a proper evaluation of her writing and life.

Ⅰ．はじめに

張愛玲に関する研究が進展する中，2020 年に次の新しい書籍資料が出版された．これにより，既存の研究に追加修正が必要となった．主な資料は，張愛玲と宋淇夫妻との往復書簡集『張愛玲往來書信集Ⅰ紙短情長（1955-1979)』，『張愛玲往來書信集Ⅱ書不盡言（1980-1995)』および，魏可風の『謫花―再

詳張愛玲』の３冊である[1]．書簡は 700 通，988 頁にわたり，張愛玲の米国生活全体が詳細に記録されている．

本論の目的は，彼女の米国生活を病気と経済生活を中心に再検討し，体調不良，執筆活動，経済状況が相互に及ぼした影響を明らかにすることである．今回の書簡は，すでに公開されている夏志清や荘信正への書簡と部分的に重複しているものの，宋淇夫妻との往復書簡集Ⅰ・Ⅱを中心に，以前の拙稿[2]で取り上げなかった上記３冊の新資料を用い，在米生活の病気と経済状況にさらなる具体性と詳細を加えるものである．これらにより，張愛玲の後半生に重大な影響を与えた皮膚疾患に関する診断名が明らかになったこと，晩年に高額な収入を得ながらも清貧な生活を続け，親族に送金をしていたとの事実が明白になることで，張愛玲が米国滞在中に遺した作品の背景がより鮮明になり，彼女の作品に対する適切な評価がさらに進むことが期待される．

Ⅱ．第Ⅰ期：ニューヨークからオハイオ州マイアミ大学まで（1955 年秋から 1967 年６月まで）

１．病気について

張愛玲は 1955 年秋に，香港から船でホノルル経由でサンフランシスコから米国に入国した．ニューヨークに到着後，救世軍の女子宿舎に滞在した．1956 年３月 13 日にニュー・ハンプシャー州のマクドウエル・コロニー（MacDowell Colony）という芸術家の交流施設に入所し，そこでドイツ系のシナリオ作家フェルディナンド・ライアー（Ferdinand Reyher，以下ライアーと記す．1891-1967）と出会い，すぐに恋愛関係に発展し，８月に結婚した．彼女は 36 歳，彼は 65 歳であった．

1955 年 12 月 18 日には，２週間にわたり重い風邪をひいたこと，1956 年６月 11 日と 29 日には，持病の頭痛と嘔吐，発作などの体調不良に言及している．また，1957 年６月５日にも重い風邪をひいていることが書簡に記録されている．さらに，1956 年に愛玲は結婚前にライアーの子どもを妊娠し，中絶していた．結婚後まもなく夫ライアーが脳卒中で倒れ，その事態に張愛玲は驚愕した．

1957 年秋には実母を失っている．1957 年 10 月 24 日に宋淇夫妻宛ての書簡では，母が英国で癌の手術を受けたが亡くなったこと，母が生前に「英国に来てほしい」と言っていたにもかかわらず，張愛玲は行けないので手紙を書き，送金し自分の作品が掲載された雑誌を送ったことが記されている[3]．母の英国の友人が，母の債務を整理した際に，一対の玉瓶に価値があることが判明したという．母は愛玲が

---

1) 張愛玲・宋淇・宋鄺文美著・宋以朗編『張愛玲往來書信集Ⅰ紙短情長（1955-1979)』皇冠文化出版有限公司，2020 年９月，以下『往來書信集Ⅰ』と記す．同著同編集『張愛玲往來書信集Ⅱ書不盡言（1980-1995)』同出版，2020 年９月，以下『往來書信集Ⅱ』と記す．魏可風『謫花―再詳張愛玲』印刻文學生活雑誌出版社，2020 年９月，以下『謫花―再詳張愛玲』と記す．

2) 鈴木基子「張愛玲書簡に見る米国での生活実態とその人生観―1963 年から 1995 年までを中心に―」『研究紀要』第 66 号，日本大学経済学部，2011 年１月，pp.63-109．以下「生活実態」と記す．鈴木基子「米国移住初期の張愛玲書簡に関する―考察―1955 年から 1966 年までを中心に―」『研究紀要』第 69 号，日本大学経済学部，2012 年１月，pp.1-22．以下「移住初期」と記す．筆者の先行研究において，在米生活の年代区分を詳述している．今回の論文でもその分類を基に整理している．

3) 『往來書信集Ⅰ』(1957 年 10 月 24 日)，p73.

幼い頃，頻繁に老いや死について話していたため，張愛玲はよく黄昏時になると庭園で一人踊りながら「一日がまた過ぎました．お墓からまた一日近くなります」と歌っていた[4]，と鄺文美に回想して書いている．母は子育てをせず外国を放浪し，張愛玲はそのことで心が傷つけられ，母娘関係は良好とはいえなかったが，それでも亡くなったということはやはり彼女にとって大きな衝撃であった．夫によるとその頃愛玲はかなり憔悴していた．

1959 年 8 月 9 日，鄺文美宛ての書簡では「これは本当に病気の徴候です．私は本当に極力精神病にならないように努めています．もし，毎日あなたと一時間会話することができるなら，それが心理的治療に勝るはずです．心理的治療といえば，サンフランシスコは私が知る唯一の心理的治療が必要とされる都市です．聞くところによると，競争によって劣等感が生まれ―（略）―」[5] と述べている．愛玲は，信頼できる鄺文美に対して，身体的だけでなく精神的なケアも必要なことを自覚していることを吐露している．また，11 月 26 日には，夏から続く風邪の症状が治らないことも訴えている[6]．

1960 年 2 月 8 日には，目のコンタクトレズが合わないと伝えており[7]，1961 年 2 月 21 日は風邪と頭痛があり，目に潰瘍ができ，心と神経の衰弱を自覚していた[8]．両足が腫れたこともあり，風邪をひきやすい体質に加え，遺伝性の近視と目からの出血に長年悩まされていた．

1964 年 11 月 3 日には，風邪をひきやすい体質に悩んでおり，この日も重い風邪をひいていたことが記されている．彼女はは常に身体的・精神的な不調に苦しみ，病魔と闘っていた．

1964 年 11 月 11 日には，ワシントンで「満足する家に住むことができても，安心感に欠けている」[9]，と記し．内的な不安を表明している．さらに，1965 年 10 月 31 日の夏志清への書簡で「いつも精神の圧迫を感じます」[10] と述べている．1966 年 7 月 8 日には，再び夏志清に心の重苦しさと体重減少を訴えている[11]．

彼女は持病による体調不良に加え，夫ライアーの看病や経済的な不安定さにも直面し，心の平静を保つことが困難であった．ライアーは結婚後すぐに二度の脳溢血を起こし，入院と手術を繰り返していた．

1955 年秋に香港から渡米した張愛玲は，複数の作品の翻訳や執筆に意欲的に取り組んだが，生前に米国で出版されたのはその一部に過ぎなかった．夫の病気と数度にわたる出版拒否は，新天地での生活を余儀なくされた彼女の精神に大きな衝撃を与えた．

---

4) 『往來書信集Ⅰ』（1976 年 1 月 25 日），p287.
5) 「第 4 部分　書信選錄」『張愛玲私語錄』（1959 年 8 月 9 日致鄺文美），皇冠文化出版，2010 年 7 月，p175.『往來書信集Ⅰ』（1959 年 8 月 9 日），p88.「移住初期」，p15.
6) 『往來書信集Ⅰ』（1959 年 11 月 26 日），p89.
7) 『往來書信集Ⅰ』（1960 年 2 月 8 日），p93.
8) 『往來書信集Ⅰ』（1961 年 2 月 21 日），p99.
9) 「第 4 部分書信選錄」『張愛玲私語錄』（1964 年 11 月 11 日致鄺文美，宋淇），p187.「移住初期」，p15.
10) 夏志清「張愛玲給我的信件」『聯合文學』（1965 年 10 月 31 日 / 夏 5），第 150 期，1997 年 4 月，p52.「生活実態」，p78.
11) 夏志清「張愛玲給我的信件」『聯合文學』（1966 年 7 月 8 日 / 夏 11），第 150 期，1997 年 4 月，p58.「生活実態」p78.

2．執筆生活と経済状況について

愛玲は U.S.I.A（United States Information Agency）からの翻訳の仕事を継続し，宋淇と『美国詩選』を共訳した[12]．1955 年 11 月 20 日の鄺文美宛ての書簡には「今，銀行の仕事がありますが，彼女に働くつもりはないと伝えました．なぜなら私は仕事と著作を同時にできないから」[13] と記しており，定職に就く意志はなく，著述活動を重視していたことがわかる．

1956 年 1 月 14 日に鄺文美宛ての書簡に「唯一の問題は目の前の生活です．お金はすでに使い，あまり残っていません．私は来てからひとつ贅沢なことをしました．―コンタクトレンズを揃えました[14]と述べている．

写真①

マクドウエル・コロニーでは，住居と仕事小屋，食事が提供されていたため，彼女の生活上の不安は多少解消されたが，英語で執筆し生計を立てようと考えていた．

彼女は旧作の小説『金鎖記』と『赤地之恋』を英文に翻訳し，後者は 1956 年に出版された．また，短編「*Stale Mates*」は，1956 年 9 月に米国雑誌『*The Reporter*』に掲載され，中国語版「五四遺事」は 1957 年 1 月に『文学雑誌』に発表された．1956 年 6 月 11 日鄺文美宛ての書簡では，「*The Reporter* が“*Stale Mates*”『五四遺事』を縮小させて 300 元でしたが，承諾しました」[15] と述べる．

『秧歌』はドイツ語，フランス語，英語でも翻訳され印税が発生していた．1957 年 3 月 24 日鄺文美宛てに「最近，かえって CBS（コロンビア放送）が『秧歌』のテレビ版権を 1400 元で買いました．安売りですが，すでに幸運です．あなたも喜んでくださると思うわ．ミセス・ローデルが『*Pink Tears*』を読んでとても好まれたとのことで，出版社の反応がどうかしら」[16] と書いている．

張愛玲は『金鎖記』を『*Pink Tears*（粉涙）』として英訳しながら，自伝も書き続けた[17]．しかし，この英訳は 5 月に出版を断られたので．またしても張愛玲は大きな精神的打撃を受け，病に倒れてしまった．『*Pink Tears*（粉涙）』は出版エージェントのマリー・ローデルには好評だったが，Random House からも出版を断られた[18]．

1957 年には「*The Shanghai Loafer*（上海游閒人）」を書き，マリー・ローデルに送ったが，これも出版されなかった．また，英訳した『*Fool in the Reeds*（荻中笨伯）』も[19]，マリー・ローデルに送った

---

12) 『謫花―再詳張愛玲』，p370.
13) 『往來書信集Ⅰ』（1955 年 11 月 20 日），p26.
14) 『往來書信集Ⅰ』（1956 年 1 月 14 日），p36．笠劲「书信里的账簿—张爱玲“美国时期”的经济状况」『新文学史料』，2024 年 1 月，p23．以下「书信里的账簿」と記す．
15) 『往來書信集Ⅰ』（1956 年 6 月 11 日），p47.「书信里的账簿」，p26.
16) 『往來書信集Ⅰ』（1957 年 3 月 24 日），p61.「书信里的账簿」，p26.
17) 司馬新『張愛玲與賴雅』，p109.「移住初期」，p8.
18) 『往來書信集Ⅰ』（1957 年 6 月 5 日），（1957 年 6 月 5 日），p65.（1957 年 10 月 24 日），p73.（1958 年 9 月 22 日），p82.
19) 司馬新『張愛玲與賴雅』，p129.「移住初期」，p9.

が出版には至らなかった．これらの立て続けの出版拒否に張愛玲は非常に失望し，心に深い傷を負った[20]．

なお，張愛玲が執筆した「色，戒」，「相見歓」，「浮花浪蕊」の３作はこの 1950 年代に書き，数十年間にわたり修正が加えられていた[21]．

張愛玲は 1958 年 11 月 13 日から翌年 5 月 13 日まで，ハンチントン・ハートフォード財団（Huntington Hartford Foundation）から資金を得て，カリフォルニアの文芸営施設で半年ほど生活していた．

U.S.I.A から委託された台湾作家の陳紀瀅の『荻村伝』を英訳した「*Fool in the Reeds*（荻中笨伯）」の中国語英語２つの版本のシナリオでは，各 1500 ドルの収入を得た[22]．

写真②

1959 年 5 月からは，サンフランシスコの中華街に近い Bush 通りのアパート（645 Bush Street, San Francisco, CA.）に住み，そこで映画シナリオ執筆と U.S.I.A からの翻訳に時間を費やした．夫は他所に仕事部屋を持った．この時期の主な収入源は電懋公司の映画のシナリオだったが，1957 年末に英国で客死した実母の残した骨董品を売って生活費にも充てていた[23]．ライアーは月 50 ドルの社会福祉金と印税を受けとっており，ふたりにとって最大の支出は家賃だったため，毎日ピザを食べて節約生活を送っていた．

張愛玲は 1960 年 7 月に 40 歳で米国国籍を取得した．彼女は新たな小説のテーマの取材をするため，1961 年 10 月 10 日に夫を米国に残して台北へ飛んだ[24]． 西安事件（1936 年）の主人公である張学良との取材を望んだが実現せず，その間台東でライアーが倒れたことを知ったものの，米国には戻らずに香港へ行き，映画シナリオを書き続けた．米国では毎月 200 ドルで生活できたため，シナリオ１本 800 ドルは４か月分の生活費に相当していた[25]．

張愛玲は，趙四と張学良の愛情を描いた『*The Young Marshal*（少帥）』を執筆していたが[26]，英語で３分の２ほど書いたところで，マリー・ローデルに出版の可能性を尋ねたが難しいと言われた。彼女は５ヶ月間香港に滞在したが，仕事は順調には進まず，失意のうちに 1962 年３月，ライアーのいるワシントンへ戻った．ワシントンでは，V.O.A（Voice of America）のラジオシナリオを書き，小説の改編

20） 司馬新『張愛玲與賴雅』，p130-132.

21） 『往來書信集Ⅰ』，p9,（1956 年 11 月 16 日），p57.（1967 年 3 月 15 日），p144.（1967 年 3 月 24 日），p147.（1973 年 9 月 29 日宋淇），p225.（1973 年 10 月 31 日），p228.（1974 年 4 月 1 日），p232.

22） 司馬新『張愛玲與賴雅』，p132.「移住初期」，p9.

23） 周芬伶編寫，謝毓祥譯「我聽到她在唱歌－賴雅日記中的張愛玲」『INK』印刻文學生活誌，2004 年 6 月，p124.「移住初期」，p8.

24） 張愛玲・宋淇・宋鄭文美著・宋以朗主編「第 4 部分　書信選錄」『張愛玲私語錄』（1961 年 10 月 2 日致鄭文美），皇冠文化出版有限公司，2010 年 7 月出版，p182.「移住初期」，p10.

25） 周芬伶編寫，謝敏詳譯「我聽到她在唱歌―賴雅日記中的張愛玲」『INK』p60.「移住初期」，p11.

26） 周芬伶編寫，謝毓祥譯「張愛玲夢魘　她的六封家書」『INK』（1962 年 2 月 20 日致 Reyher），印刻生活文學誌，2004 年 6 月，p65.「移住初期」，p11.

や翻訳を行っていた[27]．1962年には『*Pink Tears*（粉涙）』を『*The Rouge of the North*（北地胭脂）』に書き換え，1967年にようやく英国ロンドンで出版された．

「*A Return to the Frontier*（重訪辺城）」は，1963年に『*The Reporter*』に掲載された．1963年6月，張愛玲は『*The Book of Change*（易経）』を中国語に訳すことを決意した[28]．

この時期V.O.Aのシナリオの仕事を続けながら，英語で『*The Fall of the Pagoda*（雷峯塔）』と『*The Book of Change*（易経）』の執筆も行っていた[29]．

1963年7月と1964年5月の宋淇宛ての書簡では，U.S.I.Aのリチャード・マッカーシーに『*The Book of Change*（易経）』の出版社を探してもらったが，見つからなかった[30]，と書く．張欣によれば「普遍的な人間性を描いた」登場人物が米国人と変わらず，米国の読者の興味を得ることができなかったからである[31]．許子東は，言語的に文法は正しいが「People don't talk like that（人々はそんなふうに話さない）」という違和感があり，さらに小説のテーマと登場人物が1950年当時の米国文化に合わなかったこと，出版社の需要に見合わなかったこと，また，中国語の名文が英文翻訳しにくいことを理由に挙げている[32]．

他方で，映画は1957年から64年までほぼ順調に上映された．この時期の主な収入源は，宋淇が紹介した映画シナリオの執筆であり，一本に付き800ドルから1000ドルを得ていた[33]．主な作品としては，1957年『情場如戦場』，1958年『人財兩得』，1959年『桃花運』，1960年『六月新娘』，1962年『南北一家親』，1963年『小兒女』，1964年『一曲難忘』などである．

1964年6月に電懋公司の最高責任者が飛行機事故で亡くなったため，映画シナリオの仕事がなくなったが，リチャード・マッカーシーに翻訳の仕事を依頼し，最高の報酬で引き受けることができた[34]．

1966年9月から翌年4月までの9か月間ほど，張愛玲はオハイオ州のマイアミ大学ウエスタンカレッジ（Western College, Miami University, Ohio）で滞在作家を務めた．この時期，夫ライアーはすでに半身不随で要介護状態にあった．1966年10月3日の書簡に，夏志清は台湾の皇冠文化出版有限公司の平鑫濤と，張愛玲の全集出版や，原稿料と印税を特別待遇にすることについて協議し，相手方から了承を得た，と書く[35]．『怨女』は幸運にも台湾の『皇冠』と，香港の星島晩報で同時に連載された[36]．1966年9月9日の宋淇の書簡によると，星島晩報に連載された『怨女』は1300ドルだった．1000字につき

27）『往來書信集Ⅰ』（1964年1月25日），p117.

28）宋以朗「『雷峯塔』/『易經』引言」『易經』（1963年6月23日致鄺文美，宋淇），皇冠文化出版有限公司，2010年9月，p5.

29）『往來書信集Ⅰ』（1961年2月21日），p99，（1961年5月17日），p100，（1963年6月23日），p112,

30）『往來書信集Ⅰ』（1964年5月6日），p119.「移住初期」，p13.

31）張欣「第6章　張愛玲の異域想像と離散への『怨』」『越境・離散・女性　境にさまよう中国語圏文学』法政大学出版局，2019年7月，p171.

32）许子东『许子东细读张爱玲』北京大学出版社，2020年5月，pp281-286.

33）司馬新『張愛玲與賴雅』大地出版社，1996年6月，p116.「移住初期」，p8.

34）司馬新『張愛玲與賴雅』，pp165-167.「移住初期」，p11.

35）夏志清「張愛玲給我的信件（二）」『聯合文學』（1966年10月3日/夏17按語），第151期，1997年5月，p59.『張愛玲給我的信件』，聯合文學出版社，2013年3月，p67.「生活実態」，p73.

36）『往來書信集Ⅰ』（1966年9月9日宋淇），p133.

20 ドルで，「近年最高の原稿料」だった[37]．

また，1965 年 7 月と 8 月の書簡に『胭脂淚』を書き終えたという記述がある[38]．1966 年 10 月と 12 月には，夏志清宛てに，後の「半生縁」の元になる，以前大陸で書いた「十八春」（1968 年連載時の「惘然記」）について，結末に整理が必要で修正中と伝えている[39]．

オハイオ州滞在時期，彼女は仕事とライアーの介護に追われ，大学から依頼された論文の作成には不慣れで，悩んだ末提出できなかった．

張愛玲は「寡作」と言われることが多いが，愛玲と宋淇夫妻の書簡によると，1957 年から 1964 年の間に自伝的長編英文小説（『*The Book of Change*』と『*The Fall of the Pagoda*』）を書いていたことが判明している[40]．また，「*The Shanghai Loafer*」や修正を重ねた「色，戒」「相見歓」「浮花浪蕊」など未出版や未完成の原稿があった．未完の『*The Young Marshal*（少帥）』もこの時期に執筆していたと推察できる．さらに翻訳やシナリオ執筆も多数行っており，決して寡作ではなかった．

3．第 I 期のまとめ

張愛玲は，米国でライアーと出会い結婚し，英文作家としての足場を築こうと強い意志を持っていたが，度重なる英文作品の出版拒否により，精神的に大きなダメージを受けた．また，生活費や夫の治療費に追われ，米国各地を転々とし，台湾や香港にも滞在するなど，安定した生活は得られなかった．自身の持病や体調不良と闘いながらも．財団や出版社からの収入に頼って慎ましい生活を送っていた．

このように，張愛玲の英語での創作活動をしながら自立した生活を送るという夢は，現実の厳しさの前で完全には実現せず，執筆と夫の介護に奮闘する姿が見られる。第 I 期の 35 歳から 47 歳の張愛玲は，困難に直面しながら，強い意志を持ち続けて，自らの道を切り開こうとした．

Ⅲ．第 II 期：マサチューセッツ州ケンブリッジ，ラドクリフ・インスティテュート滞在（1967 年 6 月から 1969 年 6 月）

1．健康はやや小康状態

すでに 2 年間寝たきり状態だったライアーは張愛玲と上級看護師（プラティカルナース）の介護の下で別居しながら闘病生活を続け，1967 年 10 月に 76 歳で永眠した[41]．女性クラブのような所で人間関係

37）『往來書信集 I』（1966 年 9 月 9 日宋淇），p133.

38）『往来書信集 I』（1965 年 7 月 19 日），p128.（1965 年 8 月 2 日），p129.『胭脂淚』は『北地胭脂』のことであろう．

39）『張愛玲給我的信件』（1966 年 10 月 13 日晩 / 夏 22），（1966 年 12 月 30 日夜 / 夏 25），聯合文學出版社，2013 年 3 月，p68，p76．夏志清「張愛玲給我的信件（二）」『聯合文學』（1966 年 10 月 13 日晩 / 夏 18），第 151 期，1997 年 5 月，p60．夏志清「張愛玲給我的信件（三）」『聯合文學』（1966 年 12 月 30 日夜 / 夏 21），第 153 期，1997 年 7 月，p53.「生活実態」，p103.

40）宋以朗「『雷峯塔』/『易經』引言」張愛玲著，趙丕慧譯『雷峯塔（*The Fall of the Pagoda*）』，p3．pp5-6.（1963 年 6 月 23 日），（1963 年 7 月 21 日）自伝は英語で書いた後に中国語に翻訳する意向だった．皇冠文化出版有限公司の奥付によると英語版完成は 1963 年である．

41）『謫花―再詳張愛玲』，pp392-p393, pp397-401.

がうまくいかず，いざこざがあり，ますます消極的になった[42]．また，この時期には，大切な英訳本原稿の紛失が目立っている．『海上花』の英訳本原稿が所在不明となり，張愛玲はショックを受けた．1965 年 7 月には『魂歸離恨天』の原稿を，引っ越し荷物が多すぎたため間違って処分してしまい，後悔することになった[43]．また「*Spy Ring*」の原稿も紛失している．

風邪をひきやすい体質は変わらず，1968 年 2 月 8 日には，「私はこのところずっと風邪をひいています」[44]，同年 8 月 2 日にも「この二日，また風邪をひいています」[45] と書いている．このように張愛玲の体調は依然として良くなく，著名人であっても会うことができない時があった。

1968 年 9 月末には，同じアパート内で 45 号室から 43 号室へ引っ越しをしたが，月末の引っ越しで手を 2 回傷つけ，10 月 9 日の書簡では「引っ越しで 2 回手を傷つけ，字を書くのが不便です．良くなると忙しくてめまいがします」[46] と述べ，手の負傷により執筆に支障がでてきたことや，手が回復すると多忙で目が回るほどだったことを語っている．

ライアーの死によって介護の負担からは解放されたが，張愛玲の体調不良は依然続いていた．特に，東海岸の厳しい冬の気候が影響していた可能性があり，それが後に温暖な西海岸へ引っ越す一因となった．

2．執筆生活と経済状況について

写真③

張愛玲は，1967 年 6 月から 2 年間，夏志清の紹介により，ケンブリッジのラドクリフ・インスティテュート（Radcliffe Institute）で，特別研究員（Fellowship）として奨学金を得て，『海上花』の英訳に従事した．さらに自ら紅楼夢研究も行っていた[47]．

彼女の住まいはボストンのアパート 83 Brattle 通り（83 Brattle st., Apt. #45, Cambridge, MA02138）である．以前から愛読していた『海上花』を英文に翻訳する機会がついに巡ってきた．『海上花』は，韓邦慶が清末に書いた白話小説『海上花列伝』であり，上海の花街の人々の社会世相や風俗を描いている．しかし，張愛玲は 14 章分の翻訳を残したまま，完成させることができなかった．これは，彼女がひとつの仕事に集中していなかったためと考えられる．

収入は，1 年目は 5000 ドル[48]，2 年目は 3000 ドルであった[49]．また，「*Pink Tears*」を「*The Rouge*

42) 夏志清『張愛玲給我的信件』，（1969 年 1 月 3 日 / 夏 4），P138.
43) 『往來書信集 I』（1965 年 7 月 19 日），p128.
44) 『往來書信集 I』（1968 年 2 月 8 日），p160.
45) 『往來書信集 I』（1968 年 8 月 2 日），p186.
46) 『往來書信集 I』（1968 年 10 月 9 日），P180.
47) 『往來書信集 I』（1968 年 5 月 15 日），p169.
48) 夏志清「張愛玲給我的信件（三）」『聯合文學』（1967 年3月 24 日 / 夏 26），第 153 期，1997 年7月，p57.「生活実態」，p71.
49) 夏志清「張愛玲給我的信件（四）」『聯合文學』（1968 年3月6日 / 夏 31），第 154 期，1997 年8月，p146.「生活実態」，p71.

of the North（北地胭脂）」に書き換え，1967 年に英国の Cassell 出版社から出版された．ライアーの死後の第Ⅱ期においては，自身の作品の翻訳を続けながら，収入の少ない小さな仕事を探し続ける日々が続いた．香港大学が戦争の影響で卒業できず，編入した上海のセントジョンズ大学も卒業しなかったため学位を持たず，教師としても不適格と自覚し，研究者としての地位は確立できなかった．創作が真意であったとしても，かなり肩身が狭い思いをしていた．

3．第Ⅱ期のまとめ

第Ⅱ期も第Ⅰ期同様，仕事に関する悩みは多かったが，書簡で見る限り，健康に関する記述は比較的少ない方である．夫の死によって精神的にも身体的にも体調は優れないものの，最悪の状態ではなく，張愛玲にとっては我慢できる範囲内であり，小康状態の時期と言えるであろう．一方，中国は，文化大革命の真っただ中であり，傅雷夫婦や老舎など，著名な文学者の自殺がささやかれていた．叔母張茂淵の上司だった金素雯夫妻も自殺していた[50]．張愛玲は米国にいたとはいえ，叔母や残された家族のことを思い，心穏やかではなかったであろう．経済的には，ラドクリフ・インスティテュートで一定の収入を得ながら生活の安定を保っていた．夫ライアーを見取りつつ，現実の厳しさと理想の間に葛藤を感じながら，創作と仕事の方向性を模索していた．

Ⅳ．第Ⅲ期：カリフォルニア大学バークレー校中国研究センター滞在（1969 年 6 月から 1972 年 10 月まで）

1．病状について

すでに 1969 年 6 月 15 日の書簡では，中華系移民の多い街バークレーで，オフィスの中で大家族のような複雑な環境に精神的ストレスを感じていた[51]。同僚との往来をせず孤立して，夜に中国研修センターのオフィスへ行き働いた．

健康状態についての書簡をたどると，1971 年 5 月 7 日の荘信正宛てへの書簡では，「冬中は頻繁に風邪をひきます，春休みになるとまた立て続けに 2 週間（風邪をひきました）．原因はもちろん心身相関の病気です」[52] と述べている．1970 年 11 月 7 日に，「今日風邪をひき休んでいるところ」[53]，1971 年 5 月 27 日に「先月は立て続けに 2 週間風邪をひきました」[54]，1972 年 5 月 13 日は「立て続けに風邪をひいています」[55]，1972 年 5 月 20 日は，「また風邪をひき，発汗しています」[56]，1972 年 12 月 27 日には

50）『往來書信集Ⅰ』（1966 年 11 月 11 日），p139.（1968 年 10 月 15 日），p182.
51）『張愛玲給我的信件』（1969 年 6 月 15 日 / 夏 43），pp146-147.
52）荘信正『張愛玲來信箋註』，（1971 年 5 月 7 日 / 荘 28），INK 印刻出版，2008 年 3 月，pp65-66. psychosomatic.「生活実態」，p79.
53）『往來書信集Ⅰ』（1970 年 11 月 7 日），p210.
54）『往來書信集Ⅰ』（1971 年 5 月 27 日），p211.
55）『往來書信集Ⅰ』（1972 年 5 月 13 日），p214.
56）『往來書信集Ⅰ』（1972 年 5 月 20 日），p216.

「ロサンゼルスに引っ越して，記録破りの寒流に見舞われ，また風邪をひきました」[57] と宋淇夫妻に伝えている.

1972 年 5 月 13 日の鄺文美宛ての書簡で，「北カリフォルニアに来て，３分の１の時間を風邪で過ごしています」[58]，と記しており，これは，1972 年 5 月 26 日の夏志清宛てへの書簡にも同様の記述がある [59]．サンフランシスコは，「霧の街」と呼ばれ，どんよりした天候が多いことで全米でも知られており，体調不良者が多いと言われる．風邪の原因は，彼女自身の体質に加え，居住地域の気候やストレス，そして加齢による抵抗力の低下が考えられる．この時期，張愛玲は 49 歳から 52 歳にかけての年齢であった.

２．執筆生活と経済状況について

1969 年 7 月に張愛玲は，東部から西海岸のサンフランシスコに移動し，カリフォルニア大学バークレー校中国研究センター（Center for Chinese Studies，University of California，Berkeley）の研究員となった.

写真④

張愛玲は上司である陳世驤教授から課された研究課題，中国共産党の語彙研究に約３年間従事した．彼女は大学から徒歩圏内にあるデュラント街のアパート（Berkeley Park, 2025Durant ave., Apt#307, San Francisco．CA）に居住していた [60].

常に風邪をひいている状態で昼間は出勤せず，夜になってからセンターに通い，人付き合いをほとんど避けながら，仕事に従事していた．大学から与えられた語彙研究の課題と並行して，自らの紅楼夢研究と『海上花』の英訳にも取り組んでいた．しかし，陳世驤教授を満足させる研究報告を任期中に完成させることはできなかった．さらに陳教授が 5 月 24 日に心臓病で急逝した後，愛玲は職場を 6 月に解雇される可能性があり，大きな打撃を受けた.

1971 年 6 月 10 日に夏志清宛てに「まとまったお金を貯めたので仕事を探しません」との決意を述べている [61].

バークレーの仕事は，後になって「文革的結局」と「知青下放」の文章として作成されたが，米国で活字になることはなかった.

57）『往來書信集Ⅰ』（1972 年 12 月 27 日），p220.

58）『往來書信集Ⅰ』（1972 年 5 月 13 日），p215.

59）夏志清「張愛玲給我的信件（七）」『聯合文學』（1972 年 5 月 26 日 / 夏 55），第 159 期，1998 年 1 月，p108．夏志清『張愛玲給我的信件』（1972 年 5 月 26 日 / 夏 55），聯合文學出版社，2013 年 3 月，p188.「生活実態」，p79.

60）「生活実態」，p67.

61）夏志清「張愛玲給我的信件（六）」『聯合文學』（1971 年 6 月 10 日 / 夏 50），第 158 期，1997 年 12 月，p100.「生活実態」，p 72.『張愛玲給我的信件』（1971 年 6 月 10 日），p172.

3．第Ⅲ期のまとめ

すでに述べたように，張愛玲は渡米後，さまざまな財団や研究員の仕事に恵まれたが，これらは彼女にとって一時的な生活維持を支えるにすぎなかった．作家としての本業に比べれば，それらは副業であり，未経験の研究職は，彼女の名誉と自信をかえって打ち砕く結果となった．しかし幸いなことに，1974 年 6 月頃から台湾で彼女の新旧の作品が比較的多く出版され，その名声が再び高まり，愛玲を経済的に支える最大の救いとなった．

この時期，49 歳から 52 歳であった張愛玲が暗中模索しながら出した結論は，作家としての本業に戻り，中国語での文学活動に専念することだった。前章でも述べたように，張愛玲は戦争の影響で香港大学を中退し，その後再び香港大学に復学したが卒業しなかった．渡米後も鄺文美や夏志清に述べていたように，大学卒業の学位取得に対する関心は薄く，一貫して強い創作意欲を持ち続けていた．渡米して 15 年以上が経過し，生活の困難や健康問題に直面する中，様々な試練を乗り越えてきた張愛玲であったが，この時期に至ってようやく彼女が本来望んでいた執筆生活に入る決意を新たにし，その基盤を築くことができた．

Ⅴ．第Ⅳ期：カリフォルニア州ハリウッドでの執筆専念期（1972 年 10 月末から 1983 年秋）

1．健康状態について

1974 年 10 月 30 日の書簡で，「このところ消化不良が続き，持病が悪化しました」[62] と記しており，1975 年 9 月 24 日には「非常に健康を重視しています．毎日仕事の時間が長くありません」[63] と，体に気を配りながら生活している様子が伺える．1975 年 10 月 16 日には，医師から栄養状態は良好だが，リューマチ（“風湿病”）の傾向があると診断された [64]．1976 年 3 月 7 日には「様々な持病が悪化し，痩せすぎて老けました」[65] と書いている．その上，聴力に関する問題も発生していた．1978 年 2 月 20 日の書簡では，「半年間医者に耳を洗いに行っていません．耳の聞こえが悪く，目覚まし時計も聞こえません」[66] と耳の不調を訴えており，9 月には医師のところに耳を洗浄しに行く予定だった [67]．こうした病弱な状態が書簡に頻繁に記されている．

また，1977 年 11 月 11 日に「精神状態は依然として悪く，集中力が必要です，その他は何も必要ないです」[68] と夏志清に伝えている．1980 年 2 月 9 日には不眠症について言及し [69]，同年 7 月 13 日は，

62）『往來書信集Ⅰ』（1974 年 10 月 30 日），p245.「我这一向又闹消化不良，老毛病加剧」
63）『往來書信集Ⅰ』（1975 年 9 月 24 日），p272.
64）『往來書信集Ⅰ』（1975 年 10 月 16 日），p275.
65）『往來書信集Ⅰ』（1976 年 3 月 7 日），p289.
66）『往來書信集Ⅰ』（1978 年 2 月 20 日），p373.
67）『往來書信集Ⅰ』（1978 年 9 月 16 日），p394.
68）夏志清「張愛玲給我的信件（九）」『聯合文學』（1977 年 11 月 11 日 / 夏 83），第 163 期，1998 年 5 月，p96.「生活実態」，P80.
69）『往來書信集Ⅱ』（1980 年 2 月 9 日），p10.

指の関節の皮が擦り剥け，３か月間両手を水につけられず，洗髪やシャワーができなかった．手が回復した矢先に片腕と肩を捻挫し，あざができていた[70]．1982 年には皮膚科や歯医者に通い，足を捻挫し，精神状態もずっと良くなかった[71]．

1982 年，彼女が 61 歳の頃には心臓発作を起こしており，そのことを２年後になってようやく荘信正と宋淇夫妻に告白した．

２．安定した経済状況下での創作生活と精神状態について

写真⑤

1972 年 10 月にサンフランシスコからロサンゼルスに引っ越し，ハリウッドの Kingsley Drive のアパート（1825N. Kingsley Drive., Apt#305, Hollywood, CA90027）に住んだ．満 52 歳から約 10 年間，このアパートで執筆に専念した[72]．

この時期に，張愛玲は紅楼夢研究に本格的に取り組むほか，「海上花」の英訳と中国語訳を完成させた．短編小説「創世記」と「連環套」の２篇は途中で執筆を中断したが[73]，「色，戒」，「浮花浪蕊」，「相見歓」などの短編小説や，散文「談看書」，「憶胡適之」などのエッセイを執筆した．

張愛玲は，引っ越しの度に大切なものを紛失することを自覚していた．例えば，紛失したと思っていた「*Spy Ring*」の原稿は，1967 年に急いで物を整理している時にみつけた[74]．宋淇によるとこの翻訳本は，本来は国家任務を受けたスパイが裏切らないため，そのシナリオに問題があるとされ，お蔵入りになったという[75]．

1974 年から書き始めた『小団円』は 1975 年から 1976 年にかけて集中的に執筆された[76]．この小説は，自伝的小説の意識をもって執筆されたもので，張愛玲が自身の人生を反映させた作品の１つと考えられる．

また，1976 年には『張看』や『四詳紅楼夢』の執筆にも取り組み，1977 年には紅楼夢の研究書である『紅楼夢魘』を出版した．その他には，1978 年に『同学少年都不賤』の執筆を開始したが中断した．1981 年には 14 年の歳月を経て『海上花』の英訳を完成させた．

精神状態について，1973 年９月 20 日の書簡では「睡眠薬を絶つことに悩まされている以外，ここに住むのは快適です．（睡眠）薬の服用をやめることにずっと頑張ってきていますが，毎日は眠れない時

70) 『往來書信集Ⅱ』（1980 年７月 13 日），p25.
71) 『往來書信集Ⅱ』（1982 年３月 10 日），p90.（1982 年６月 20 日），p98.（1982 年８月１日），p108.（1982 年 10 月 28 日），p112.
72) 「生活実態」，p67.
73) 『往來書信集Ⅰ』（1974 年４月 23 日），p233.
74) 『往來書信集Ⅰ』（1967 年４月 10 日），p147.（1973 年 10 月 31 日），p228.
75) 『往來書信集Ⅰ』（1976 年４月 15 日），p315.
76) 『往來書信集Ⅰ』（1974 年５月 14 日），p237.

間が長すぎるのにそれ以外の時間は却って足りていません．そのため心が焦るので，更に人と会わなくなります，用事がある時を除いては……．この人に会ってあの人に会わないとなると人間関係を悪くしてしまうから…」[77] と記している．張愛玲は知り合いに一切会わない決意をして孤高に生活した．

南カリフォルニアに引っ越してからの第Ⅳ期と次の第Ⅴ期は，貯金と印税に頼った生活を送っていた．この時期，彼女は Kingsley Drive に定住し，創作活動と翻訳活動に専念していた．また，唐文標と水晶の張愛玲研究によって，再び注目を集めるようになった．1970 年代の台湾出版界は，知的財産権が法的に保護されておらず，海賊版や不法出版，不法連載，不法復刻版が横行していたが [78]，張愛玲ブームが起こっていた．出版社との交渉については，皇冠文化出版は平鑫濤と夏志清に委任し，香港の生活・文化出版については宋淇に任せた．大地出版と慧龍出版は張愛玲本人が直接当たった．

1977 年の書簡では『赤地之恋』が慧龍出版から改ざんされて出版されたことを知り，張愛玲は激怒した [79]．唐文標は『張愛玲雑碎』（聯經出版事業公司，1976 年）を編集出版し [80]，その後『張愛玲卷』（遠景出版事業公司，1982 年）と『張愛玲資料大全集』（時報文化出版事業有限公司，1984 年）も出版し，彼女を大いに傷付けたばかりでなく問題が発生した．

経済生活については，1975 年 11 月 6 日に宋淇から「RTV が張愛玲の小説のテレビ改編権を買いたいと言っている」と伝えられた．代表的には，『半生縁』は 500 ドル位，『怨女』は 400 ドル位であった [81]．1976 年 1 月 19 日には，宋淇が，『半生縁』と『怨女』のテレビ版権が解決し，1400 ドル小切手を受領した，と書いている [82]．しかし，愛玲は少しお金を手にしても生活でほとんどなくなり，あまり貯金として残らない，と言っていた．堅実に生活していたのである．

『赤地之恋』に関しては問題があったが，1978 年 8 月 8 日に宋淇夫妻宛ての書簡では，慧龍出版から合計 2000 ドル小切手を受け取ったことが報告されている [83]．

1977 年の上半期の皇冠の印税は 1500 ドルであった．1979 年 8 月 23 日に宋淇夫妻宛ての書簡には「皇冠からの半年の印税がずっと 2000 ドルほどです。昨年下半期に 1000 ドルだけでしたが，今年上半期に 4000 ドルもありました」と書く [84]．

同様の記載は，1983 年 10 月 31 日の夏志清宛ての書簡にもみられる [85]．皇冠文化出版から半年ごとに 2000 ドルの印税があり，時にはそれが 2 倍になることもあった．しかし，張愛玲は金銭に対する執着

77）『往來書信集Ⅰ』（1973 年 9 月 20 日），p224.
78）『往來書信集Ⅰ』（1972 年 12 月 17 日宋淇），p219.
79）夏志清『張愛玲給我的信件』（1977 年 9 月 8 日 / 夏 80），p258.（1977 年 10 月 20 日 / 夏 81），p260.（1977 年 11 月 11 日 / 夏 82），p262.（1977 年 11 月 30 日 / 夏 83），p262.（1978 年 4 月 8 日 / 夏 86），p270. 莊信正『張愛玲來信箋註』，（1978 年 12 月 11 日 / 莊 44），INK 印刻出版，2008 年 3 月，p98.「生活実態」，p107.『往來書信集Ⅰ』，（1978 年 3 月 7 日），pp376-377.（1978 年 5 月 6 日），pp385-386.
80）『往來書信集Ⅰ』（1976 年 7 月 7 日），p324.
81）『往來書信集Ⅰ』（1975 年 11 月 6 日），p278.
82）『往來書信集Ⅰ』（1976 年 1 月 19 日宋淇），p285.「书信里的账簿」，pp24-25.
83）『往來書信集Ⅰ』（1978 年 8 月 8 日），p392.
84）『往來書信集Ⅰ』（1979 年 8 月 23 日），p419.「书信里的账簿」，p25.
85）夏志清「張愛玲給我的信件」『聯合文學』（1983 年 10 月 31 日 / 夏 5），第 150 期，1997 年 4 月，p52.「生活実態」，p75.

がなく，1979 年 2 月 10 日に夏志清宛てへの書簡で「お金持ちに誤解されていますが，貧しさを手紙で訴えようとは思いません」と述べる [86]．

1983 年 5 月 21 日の書簡で張愛玲は宋淇夫妻に対し，「上海に戻ってから叔母（張茂淵）の夫は腰が痛く，叔母はもともと足が弱く歩くのが不便なので，老夫婦ふたりで買い物に行くのも一苦労です．私は再び 1500 ドルを送金する準備をしています．先回送ったお金で叔母はテレビを購入しました．普段の生活費は年金で足りています」[87] と述べている．

また，彼女自身も歯医者に通い，歯のクリーニングや虫歯治療をしていた [88]．上海時代にお世話になった叔母に配慮し，自分の健康にも気を使っている様子が伺える．

1983 年 11 月 5 日の書簡では，以前 1500 ドルを送金しようとした際に，叔母がそれを断ったことが記されている [89]．叔母は，張愛玲の固定収入や年金の有無を心配していたのである．

3．第Ⅳ期のまとめ

第Ⅳ期は，52 歳から 63 歳の頃で南カリフォルニアのハリウッド Kingsle Drive のアパートに 11 年間定住し，比較的心穏やかに研究と創作活動に取り組んだ時期である。この期間，仕事面でのトラブルもあったが，創作面では充実した成果を上げることができた．健康状態は依然として芳しくなかったが，生活は比較的安定していたと言える。夏志清や平鑫濤の理解と配慮に支えられ，安定した収入を得て生活していたが，張愛玲本人には経済的に安定しているという自覚があまりなかったようである。

Ⅵ．不安定な晩年：米国生活第Ⅴ期について（1983 年 12 月から 1995 年 9 月まで）

1．病状：虫刺されによる皮膚病

第Ⅴ期において，張愛玲は病弱な中で異常なほどの頻度で引っ越しを繰り返し，外界との接触をほとんど断つ孤独な生活を送っていた．人との交流は限られた旧知の親交者との書簡のやり取りに限定し，人間関係をほぼ遮断して，孤高の生活を送っていた．

1983 年秋から 1988 年初めにかけて，もともと皮膚アレルギーを抱えていた張愛玲は，虫刺されによる皮膚病に悩まされていた [90]．アパートに定住できず，モーテル [91] を転々とする生活を送り，1984 年 8 月から 1989 年 3 月までの 3 年半で 180 回もの引っ越しを繰り返した [92]．たとえば，Best Western

86）夏志清「張愛玲給我的信件（十一）」『聯合文學』（1979 年 2 月 10 日夏 /93），第 166 期，1998 年 8 月，p72.「生活実態」，p77.

87）『往來書信集Ⅱ』（1983 年 5 月 21 日），p157.「书信里的账簿」，p27．叔母張茂淵の夫は李開第.

88）『往來書信集Ⅱ』（1983 年 5 月 21 日），p157.

89）『往來書信集Ⅱ』（1983 年 11 月 5 日），p184.

90）『謫花―再詳張愛玲』，pp406-407.

91）モーテル（Motel“汽車旅館”）は，米国で車で移動する人たちがよく利用する小さな簡易ホテルのことを指す．『往來書信集Ⅱ』（1984 年 1 月 13 日），p193.

92）「張愛玲晚年被蝨子追著流亡 3 年換 180 多個住處」『華夏經緯網』，2011 年 3 月 11 日，http://www.huaxia.com/zhwh/sslh/2326496.html．http://big5.huaxia.com/zhwh/sslh/2326496.html.／2013 年 7 月 4 日閲覧.「張愛玲：3 年

写真⑥

Hotel，Monterey Park Inn，Bell Vista Motel，Redwood Inn Motel，Nutel Motel 等々に滞在し[93]，平均すると 7 日に一度という異常なペースで転居していた．

1984 年 1 月からは，毎日モーテルや部屋を変え，衣服を棄て，Fleas（ノミ）を避け，転々とする生活が始まった．愛玲の皮膚には殺虫剤による部屋の消毒や引っ越しも全く効果がなく，医師の診察を受け，ドライスキン「湿疹性皮膚病」とも診断された．

また，虫刺されによる皮膚病に加え，頻繁に風邪をひき，ひどい風邪のために耳が聞こえなくなることもあった．さらに，香港でも経験した目からの出血が再発し，極度の疲労に陥っていることを自覚し，不眠症も抱えて精神状態が悪かった[94]．風邪の影響で耳の状態が悪化し，風邪が治っても耳は改善せず，補聴器の調整もできず不便な状態だった[95]．耳の不調はさらに悪化し，完全に耳が聞こえなくなることもあった[96]．

1984 年 3 月 26 日の書簡によると，張愛玲は頭から足先まで局所のトラブルに対応するための独特な装いをし，髪を自分で角刈りにカットしスカーフで巻いていた．外出には布スリッパを履いていた．足は腫れ，さらに歯医者にも通っていた[97]．

1985 年 3 月 3 日に宋淇夫妻宛ての書簡で，張愛玲は次のように記している．

「医者が私の皮膚は『eczemaish conditon（湿疹・アトピー性皮膚炎）』と言ったのは既に 10 数年前のことです．腕の皮膚がむける以外に特に目立つような症状はありません．だけれども，手足が何かにぶつかるとすぐに切れてしまい，傷口は長い間癒えないのでとても厄介です．だから医者に診てもらっています．現在，小さくなったノミに刺されても，熱い痛みを微かに感じるだけになりました．イグサのように一筋赤く広がり，いくつか小さなぶつぶつができますが，その後はすぐに無くなります．最近は症状が悪化したので角刈りにしました．（台湾の黄蘭を思い出しました）が，それでも頭のてっぺんはわずかに左に偏っていますので，おそらくつむじのところは体温が高いのだと思います．依然としてスカーフをいつも巻き，消毒も毎日しています．下着は絶えずアルコールで拭き，濡らした紙でノミを拭き取ります．そうしないとノミが体内に入ってきてしまいます」[98]．

搬家 180 次，懷疑身上有蟲子，屍體腐爛一週才被發現」 由微光小窩 發表于 社會 2022 年 1 月 31 日． https://aaxa.cc/society/47790.html『安夏網』．2022 年 8 月 27 日閲覧．「传言张爱玲在四年中搬了 180 次家，而真实的情形却是这样」『百度百科 TA 说』https://wapbaike.baidu.com/tashuo/browse/content?id=5d5bb1f88eb2fd495d7b212e，2024 年 10 月 4 日閲覧．

93） 淳子『花落－張愛玲美國 40 年』立緒文化事業有限公司（台灣），2017 年 10 月，p24.

94） 『往來書信集Ⅱ』（1983 年 6 月 13 日），p160.（1983 年 7 月 3 日），p168.（1983 年 7 月 6 日），p169.

95） 『往來書信集Ⅱ』（1984 年 1 月 13 日），p193 .

96） 『往來書信集Ⅱ』（1984 年 2 月 3 日），p195.

97） 『往來書信集Ⅱ』（1984 年 3 月 26 日），pp205-206.

98） 『往來書信集Ⅱ』（1985 年 3 月 3 日），p244.

頻繁に引っ越すため，定住先や固定住所がなく，郵便物を受け取る際には本局留めにしたり，私書箱を借りたりしていた。身体の不調に加え，こうした生活上の不便も抱えていた.

また，愛玲は睡眠不足からくるトラブルについても度々言及しており[99]，バスの中で居眠りをしている間に財布を盗まれるという被害にも遭っていた．バスの中で 3 回，合計 1600 ドルの現金を盗まれるという被害もあった[100]．このように，1980 年代半ばの数年間は，彼女にとって身体的にも精神的にも極度に不安定で困難な時期だった.

1988 年になって，ようやく皮膚病が抗生物質と特効薬ですぐ良くなったと感じたが[101]，完治には至らなかった．1988 年 2 月 12 日の書簡では，鄭緒雷（司馬新）の紹介の UCLA の病院で診察を受けた結果，「診断は少なくとも現在，虫はいない．皮膚が特別に敏感で炎症を起こしやすい．Dr. Kaplan は足の湿疹と関係があると言う」と報告している[102].

1988 年 2 月に，ようやく皮膚病がやや好転して，アパート（245 So. Reno Street., Apt#9, LA90057）に定住できるまでに回復した．1988 年 3 月 13 日の荘信正宛てへの書簡で，ようやくノミ騒動が収まったことを知らせ[103]，小康状態になったと記している.

写真⑦

さらに，1988 年 6 月の書簡では，建築家で世話人である林式同が建てた Lake 通りの新しいマンション（433 S. Lake Street., Apt#322, LA, CA）に引っ越したこと[104]，が書かれている.

風邪をひきやすい体質も変わらなかった.

住所を秘密にするのは偏執的（paranoid）になるほどで，設置した電話は病気の緊急連絡のためであり，仕事であっても電話番号を知られたくなく，定住後も私書箱を使い続けた[105].

2．身体の各部位：腕・心臓・眼・歯・耳等の状態と栄養状態について（1989 年から 1995 年）

張愛玲は 1989 年から 1995 年まで，虫刺されによる皮膚病以外の腕・心臓・眼・歯・耳などの身体各部のトラブルや，全身の健康状態，栄養に関する問題に苦しんでいた.

1989 年 4 月 3 日の書簡には，「腕が傷ついて，手が腫れて，あまり字が書けない」[106] と，腕の骨折について記されている．また，1989 年 5 月 3 日と 6 月 29 日には，通りを横切る時に，中南米の青年とぶ

99) 荘信正『張愛玲來信箋註』，（1984 年 11 月 28 日 / 荘 67），p162.（1985 年 2 月 16 日 / 荘 68），p164.「生活実態」，p83.

100) 『往來書信集Ⅱ』（1986 年 6 月 9 日），pp269-270.

101) 『往來書信集Ⅱ』（1988 年 2 月 12 日），p316.

102) 『往來書信集Ⅱ』，（1988 年 2 月 12 日），p316.

103) 荘信正『張愛玲來信箋註』，（1988 年 3 月 13 日 / 荘 71），p172.「生活実態」，p82.

104) （1988 年 6 月 26 日致鄺文美，宋淇）「第 4 部分書信選錄」『張愛玲私語錄』，pp267-268.『往來書信集Ⅱ』（1988 年 6 月 26 日），p336.

105) 夏志清『張愛玲給我的信件』（1988 年 12 月 14 日 / 夏 109），p348.
荘信正『張愛玲來信箋註』（1988 年 3 月 13 日 / 荘 71），p173.（1993 年 9 月 13 日 / 荘 8），p204.

106) 『往來書信集Ⅱ』（1989 年 4 月 3 日），p363.

つかり，右腕を骨折していたことが，１か月後のレントゲン検査で判明したが，手術はせずに済んだ[107]，と報告している．

栄養でも不安があり，何度か診察を受けていた．1989 年 6 月 29 日には，前年に湿疹が再発したことに加え，「コレステロールが高いことがわかり，肉・タマゴを控えて，禁制品の代用品を使って異なる料理を作るよう試みています」[108] と書いている．

心臓に関しては，みぞおちの痛みを気にかけ，非常に注意深く対応していたことがわかる[109]．1990 年 9 月 26 日の書簡では，心臓発作（Heart attack）の危険はなく，貧血があり，皮膚が悪化していることや，皮膚科の医師から栄養不足と診断されたことが，記されている[110]．また，1990 年 11 月 4 日には「以前，心臓発作の跡があると言われたが，ローカロリーダイエットは正しい選択です．―（略）―毎日缶詰の魚を食べています」[111] と述べている．

目については，1989 年 10 月 17 日の書簡で，白内障になった，眼鏡も合わないと，記されている[112]．また，1994 年には，香港でも経験したように目の周囲に塗った薬によって目から出血したことが，記されている[113]．

1993 年 10 月 17 日に，「風邪はすでに 1 か月に一度から数週間ごとにひいており，―（略）―それも頻繁に続いています．病気の時，薬を塗らなかったので，爪真菌症が悪化し，極小さい塊が眼に入り，角膜を損傷しまして，病院の ER（救急）に行かざるを得ませんでした．―（略）―部屋を 2 回燻蒸し，窓を開けて空気を入れ替えたものの，時間が経つと風邪をひいてまた寝込んでしまいました．蟻は一度絶滅しましたが，１ヵ月後に再び出現しました」[114]，と記されている．

歯については，「1 日中練習して，やっと入れ歯を付けられるようになりました」[115] と 1994 年に書簡に記されている．

耳については，1994 年 10 月 3 日の書簡で「耳が聞こえなくなってようやく耳を洗浄してもらえます」[116] と記し，1955 年に「ずっと皮膚病が耳に入ることを心配していましたが，ついに耳の中が流血し，炎症を起こし―（略）―全身にまで広がっています」[117] と報告されている．また，一日 13 時間も日光灯を照射していた[118]，と記されている．皮膚病が耳の中にまで広がって炎症を起こしていたことがわかる．

---

107) 『往來書信集Ⅱ』（1989 年 5 月 3 日），p363.（1989 年 6 月 29 日），p364.
108) 『往來書信集Ⅱ』（1989 年 6 月 29 日），p364.
109) 『往來書信集Ⅱ』（1990 年 4 月 9 日），p413.
110) 『往來書信集Ⅱ』（1990 年 9 月 26 日），p440.
111) 『往來書信集Ⅱ』（1990 年 11 月 4 日），p445.
112) 『往來書信集Ⅱ』（1989 年 10 月 17 日），p377.
113) 『往來書信集Ⅱ』（1994 年 8 月 31 日），p527.
114) 『往來書信集Ⅱ』（1993 年 10 月 17 日），p509.
115) 『往來書信集Ⅱ』（1994 年 4 月 22 日，23 日，５月 5 日），p524.
116) 『往來書信集Ⅱ』（1994 年 10 月 3 日），P532.
117) 『往來書信集Ⅱ』（1995 年 3 月 4 日），p543.
118) 『往來書信集Ⅱ』（1995 年 5 月 21 日），p547.

亡くなる1，2か月前の1995年7月25日の書簡には，健康に関する詳細な記述が多くみられる．その中には，次のような具体的な症状が記されている．

「前の手紙で述べたように，皮膚が更に悪化し，薬が効かなくなってきました．日光灯だけが効果を示しています．―（略）―医師はあまり賛成していませんが，『毎日日光灯を照射すれば役に立つ』とだけ言われました．日光浴の店（tanning salon）に毎日通うのは疲れるので，―（略）―（2軒あるうちの1軒は），寒くても冷房を付けているため風邪をひき，家庭用の日光灯を購入することを決心しました」と書かれている[119]．

日光灯の活用に関しては，張愛玲が苦心していた様子が記されている．以下はその具体的な引用である．

「以前の手紙で一日に13時間照射しなければならないと言いましたが，実は，23時間使っています．なぜなら，長くとも30分ごとに止めて，眼の中に入ってきた小さな虫を取り除かなければならないからです．ふききれなかったものは水道の蛇口で洗い落とし，顔に塗った薬が落ちたら，また塗り直さなければなりません．ある日，途中で眠ってしまい，起きると片方の目が赤くなり，眼を開けられませんでした．眼の中のものを洗い流すと，だんだんと腫れが引いていきました．またある日，手紙を受け取りに行き，郵便物を入れた袋が重すぎて，肩の皮膚が少し擦り切れてしまいました．―（略）―治るのに1ヵ月かかりました」[120]．

「預けてあった郵便物を取りに行って戻ると，郵便物が重すぎて，肩の皮を少し擦ってしまい，1か月も治りませんでした．日に日に肩に新しい肉ができてきたと思ったら，また虫の付いた穴（“蛀洞”）から流血しました．―（略）―髪の毛が少し長くなると，日光灯が照射できなくなります．―（略）―．照射すると少し良くなります」[121]．

「照射によるドライスキン（乾燥肌）は，もっと良くないですが，応急手当にすぎません．―（略）―幸い耳の中はまだ化膿していません．しかし，これから徐々に侵入してくると耳鼻科では対応できなくなります」[122]

さらに，張愛玲の皮膚にいるとされる「虫」について，医師からは「虫は存在せず，ただのスキンフレイク（“膚屑”Skin flakes）だ」と診断され，張愛玲は不信感を抱いていた．

---

119) 『往來書信集Ⅱ』（1995年7月25日），p550.
120) 同上
121) 同上
122) 『往來書信集Ⅱ』（1995年7月25日），p551.

「スキンフレイクは Sandfly（“沙蝿”）のように人を咬み，眼をまっすぐに刺し，それによって眼が刺されたように痛みます．眼が軽く流血してすでに一年余りになります」[123]．

この診断に愛玲は耐えられず，林式同の紹介による医師に診てもらうことにしました．その結果，「肩に潰瘍（ulcerated）が見つかり，数週間で傷口が治り，顔も少なくとも，傷口が良くなりました．―（略）―しかし，まだ内科に行く時間がなく，歯医者と眼科医 2 名に行く必要があります．新しい眼鏡を作らないと，街を歩くのに信号機がはっきり見えません」と記している [124]．

3．張愛玲の病名について

張愛玲の逝去後 2013 年に，医師の吳佳璇が彼女は「心身症」を患っていた，と診断するほど愛玲の神経・精神状況は深刻だった [125]．これら虫刺されによる皮膚病については「皮膚寄生虫妄想」という，ひとり暮らしの高齢女性に見られる精神科領域の病気であった可能性が推察される [126]．後年の研究で 2020 年に魏可風による「リケッチア」（細菌感染症，Rickettsial Infection）説が浮上している [127]．張愛玲は 2 回“傷寒大症”（マラリア，腸チフス，インフルエンザ等）を患っており，これらの病気の症状が，現代医学でのリケッチアと符号すると推察される．そこで，彼女の書簡からも読み取れるように，「最後に張愛玲を十数年も苦しめた疾病は，全く精神の幻覚ではなく，本当の感染症によるものである」[128] と判断されている．1980 年代から 90 年代当時は，リケッチアの治療に使用できる抗生物質がほとんどなく，米国の医療制度の事情もあり，治療が困難だったとされる．

4．生活と経済状況について

張愛玲は転居を繰り返す中で，張愛玲は創作作品だけでなく，多くの書簡や作品を含む重要な文書類も紛失していた．彼女の思い違いで後に戻ってきたものもあったが，その間，各種サービスを受ける手続きや執筆活動において，煩雑な問題が多々生じた．

例えば，入籍証明書とカリフォルニア ID を紛失したため，モーテルに泊まることも，アパートを借りることもできず，銀行口座の開設や医療保険加入の準備も進められなかった．さらにはパスポートも

---

123) 『往來書信集Ⅱ』（1995 年 7 月 25 日），p551.

124) 『往來書信集Ⅱ』（1995 年 7 月 25 日），p554.

125) 吳佳璇「張愛玲的身心症與文學夢」2013 年 2 月 11 日，『聯合文學』340 期，2013 年 2 月號，pp73-75．鈴木基子，2020 年度学位論文「張愛玲『小団円』にみる恋愛と結婚―伝記と小説との比較を通して―」（お茶の水女子大学），p22.

126) 船山道隆「皮膚寄生虫妄想（特集　初老期・老年期の妄想：症状の理解と治療）」『老年精神医学雑誌』25(10)，2014 年 10 月，pp1114-1118．鈴木基子，2020 年度学位論文，p23.

127) 『謫花―再詳張愛玲』，pp433-469．魏可風「一襲被冤枉的華美袍－張愛玲疾病年表以及立克次體病症狀」『INK』張愛玲 100，204 號，印刻文學生活雜誌出版，2020 年 8 月號，pp68-86.

128) 『謫花―再詳張愛玲』，p437．魏可風「一襲被冤枉的華美袍－張愛玲疾病年表以及立克次體病症狀」張愛玲 100『INK』張愛玲 100，204 號．印刻文學生活雜誌出版，2020 年 8 月號，p70.

作成できなかった.

具体的状況として，彼女はカリフォルニア州の ID のほか，預金通帳・小切手・入籍証明（夫ライアーとの結婚証明書）・夫の死亡証明書・米国のパスポート・『赤地之恋』の慧龍出版社との契約書・『海上花』の決定稿・多くの手紙・そして預けた倉庫の中のもの等，極めて重要な文書類を紛失していた．預金通帳や小切手・入籍証明については，あるモーテルに忘れていたと思っていたが，盗まれたことが判明した．特に ID は愛玲がアメリカで生活を続ける上で最も重要なものであった.

さらに，1984 年 2 月 10 日の書簡には，危険な環境での生活状況が詳細に記されている.

「数日前の手紙で Howard's Weekly Apts. に少なくとも 1 か月滞在するつもりだから，手紙はこちらに送るようにと書きました．しかし，昨日預金通帳，小切手及び過去既に紛失した入籍証明が無くなっていることに気づきました．元来私は忘れっぽいので，引っ越してきた時に前のモーテルに忘れてしまったのだと思っていました．こちらのモーテルでは女性清掃員が週 1 回掃除することになっています．清掃が終わったばかりの次の日，私は起きるのが遅くて，ドアに鍵がかかっていたのにもかかわらず女性清掃員に開けられました．私が寝ているのを見ると，またドアを閉めたのでした．最初は私が出かけているものだと思ったのでしょう．疑わしい状況です．こちらのモーテルにいる客はアジアやアフリカからの青年ばかりです．彼らのパスポートを盗むことは一種の商売になっているようです．入籍証明書は更に高額な取引になります．最近買った安いスーツケースには鍵がありませんので，貴重品は常に持ち歩くようにしています．預金通帳と小切手には 100 ドルしか入っていませんので，家の中に置いています．女性清掃員は明らかに盗む喜びがはたせなかったのでしょうが，身の毛がよだつ思いをしました．次の水曜日で 2 週間の期限になるので，やはりその時に出て行きます」[129]

これらの重要な文書を紛失した結果，愛玲は遺言の執筆[130]，書留の受け取り，為替送金[131]，都市部の中上レベルの宿泊施設への宿泊や部屋の変更，65 歳以上のメディケア（老齢者医療保険制度）への加入[132]，クレジットカードの作成，銀行口座の預け替え[133]，パスポートの作成[134]，そして版権登記ができなくなった.

ライアーとの入籍証明については，1991 年 10 月 9 日に昔の入籍記録がワシントンで見つかったという手紙が届き，ようやく再申請できることとなった[135]．翌年にメディケアに加入できる見通しとなっ

129) 『往來書信集Ⅱ』（1984 年 2 月 10 日，p196.
130) 『往來書信集Ⅱ』（1985 年 2 月 1 日），p239.
131) 『往來書信集Ⅱ』（1987 年 11 月 9 日），p310．移民事務所でパソコンで調べて入籍記録がない.
132) 『往來書信集Ⅱ』（1989 年 11 月 19 日），p381.
133) 『往來書信集Ⅱ』（1990 年 2 月 15 日），p397.
134) 『往來書信集Ⅱ』（1990 年 2 月 16 日），p401.
135) 『往來書信集Ⅱ』（1991 年 10 月 9 日），p477.

た．重要書類である「結婚証明書」や「ライアーの死亡証明書」は，すでに一度再発行していたものであったが再度紛失しており，政府からの証拠となる手紙もなくしていたことに気づいた[136]．その後 1992 年 9 月に，愛玲は再度，カリフォルニアの ID（身分証）を紛失し[137]，再発行してもらっている．

この時期の具体的経済状況は以下の記述により明らかである．1984 年 1 月 16 日に宋淇は，『傾城之恋』の印税が 15,000 ドルであること[138] を伝え，1987 年 2 月 26 日に宋淇は，『第一炉香』の印税について E.C.U14,761,90 ドルである，と知らせている[139]．

また，1988 年 1 月 22 日には，預金通帳が後に銀行のカウンターに置き忘れていたのが発見された[140]．知己からの書簡も大量に紛失していた[141]．数年分の書簡を開けて読むことや，請求書のみを開封する時期もあった．度重なる転居や病弱な身体の影響もあり，愛玲にはやむを得ないことたっだ．

さらに，完成させた『海上花』の決定稿について，目次と英文の序以外をすべて紛失していたことがわかった際には「魂が消えるほど驚いた」[142] と 1986 年に記している．

このように健康状態が非常に悪かったものの，経済的には以前の作品の印税や舞台劇の上演によって，高額な収入があった．1987 年 8 月 15 日に宋淇は，『怨女』の版権費 12,000 ドル，『第一炉香―沈香屑』版権費 15,000 ドル，『茉莉香片』舞台劇改編版権 500 ドル，『傾城之恋』舞台劇改編費 640 ドル相当など，これは「有史以来の最高額」と伝えている[143]．さらに，1987 年 10 月 15 日には，宋淇から，『魂歸離恨天』の原稿料として 1,446 ドルを受け取り，さらに 10 月 9 日に ECU（欧州通貨）1,260.00 を購入したとの報告を受けている[144]．1990 年 2 月 26 日に宋淇は，「草爐餅」160 ドル，「草爐餅後記」60 ドル，「“嗄？”？」360 ドルで，合計 580 ドルと知らせている[145]．

宋淇は張愛玲の経済を管理するだけでなく，資金運用も行っていたので，張愛玲は経済的に恵まれて安心していたのである．

5．親族である叔母張茂淵と弟張子静への送金について

張愛玲は，上海で同居し世話になった叔母張茂淵に対して度々送金を行っていた．父は 1953 年に，母は 1957 年に亡くなっていた．実は叔母は，返済を望んでいなかった．1956 年 3 月 19 日の鄺文美宛ての書簡によると，叔母は返済は不要だと言っていたにもかかわらず[146]，1990 年 4 月 9 日の書簡で，愛

136）『往來書信集Ⅱ』（1992 年 8 月 5 日），p499.
137）『往來書信集Ⅱ』（1992 年 9 月 29 日），p501.
138）『往來書信集Ⅱ』（1984 年 1 月 16 日宋淇），p194.
139）『往來書信集Ⅱ』（1987 年 2 月 26 日宋淇），p289.
140）『往來書信集Ⅱ』（1988 年 1 月 22 日），p315.
141）『往來書信集Ⅱ』（1984 年 11 月 27 日），p237.（1988 年 12 月 27 日），p356.
142）『往來書信集Ⅱ』（1986 年 12 月 29 日），p279.
143）『往來書信集Ⅱ』（1987 年 8 月 15 日宋淇），pp299-300.
144）『往來書信集Ⅱ』（1987 年 10 月 15 日宋淇），p305.
145）『往來書信集Ⅱ』（1990 年 2 月 26 日宋淇），p405.
146）『往來書信集Ⅰ』（1956 年 3 月 19 日），p42.

玲がどうしても返金したい意向を示したため，叔母は 2000 ドルで良いと答えたが，結局愛玲は 2500 ドルを送金した，と述べている [147]．

叔母は晩年に，張愛玲の香港大学時代の保証人となった李開第と結婚するために資金が必要であろう，と愛玲は考え，愛玲は叔母の結婚を口実にしながら叔母を思いやり送金していた [148]．

宋淇によると 1990 年に「1 月 4 日に私はあなたに 5 頁になる手紙を書きました。あなたの叔母の詳しい状況を報告したのです．すでに 3 日に Mae（宋淇の妻，鄺文美）から 300 ドル送金しました」[149] とあり，宋淇は香港から，張愛玲の叔母と連絡を取り，張愛玲と叔母に双方の状況を伝達するだけでなく，送金の手伝いもしていた．叔母は癌を患い，すでに終末期であった．

1990 年 2 月 15 日の書簡には，次のように記載されている．

「わたしは準備していた 2500 ドルを送ります。もし一度に送金できれば，彼らの手元に多くのお金が届き，買い物に行くために人を雇ったり，新しいテレビを買うことができるでしょう．もしそれが難しい場合は，どうか Mae にお願いして，（叔母に）2 か月ごとに 500 ドルか 800 ドルを送ってもらってください」[150]．

また，1990 年 2 月 25 日に「Mae が私の替わりに叔母に 300 ドルを送金してください．私は月末に銀行に行き，300 ドルを追加で送金します」[151] と書かれている．

1991 年 7 月 12 日の書簡では，李開第から叔母の死を知らされたことが述べられている [152]．張愛玲と叔母は「親兄弟，明算帳」（兄弟でもお金のことはきちんと清算する）関係であった [153]．

張愛玲は，世話になった叔母に，自らだけでなく，宋淇夫妻にお願いして替わりに送金してもらうなど，深い感謝の念を示していた．

叔母との連絡が途切れた時期もあったが，その後再び交流が復活し，香港の宋淇夫妻を通じて何度も通信を交わしていた．一方で，これまで張愛玲と弟の関係は良好とは言えず希薄で，弟に一切の援助をしていなかったのではと理解されていたが，笠劲が指摘するように，新しく公開された書簡によりその認識が覆された．1992 年 3 月 12 日付の書簡には [154]，張愛玲は李開第との手紙のやり取りで，弟への米ドル送金について誤解が生じていたところ，西安映画スタジオから合計 2000 ドルの原稿料を受け取る予定があったので，そこから諸経費を差し引いた一部のお金を李開第を通して弟に渡すことになった，と書かれている．書簡には，将来的なこと，つまり海外送金が可能になれば，とも書かれていることから，張愛玲は弟への援助について，一回限りとは考えていなかったのではないかと推察できる．定期的

147) 『往來書信集Ⅱ』（1990 年 4 月 9 日），p413.
148) 『往來書信集Ⅰ』（1979 年 4 月 8 日），p411.
149) 『往來書信集Ⅱ』（1990 年 1 月 31 日宋淇），p394.
150) 『往來書信集Ⅱ』（1990 年 2 月 15 日），p400.「书信里的账簿」，p27.
151) 『往來書信集Ⅱ』（1990 年 2 月 25 日），p404.
152) 『往來書信集Ⅱ』（1991 年 7 月 12 日），p471.
153) 『往來書信集Ⅱ』（1995 年 7 月 25 日），p555.
154) 『往來書信集Ⅱ』（1992 年 3 月 12 日），p488.「书信里的账簿」，p27.

ではないとはいえ，弟に対する援助にはそれほど拒絶する意志はなかったかのように見える．これは張愛玲が年齢を重ねて，弟に対する気持ちが変化してきたことと，中国の伝統的な考え方を根底に持ちながら，姉が弟に対する尊厳を保とうと葛藤したことが背景にあると考えられよう．

６．第Ⅴ期の出版状況と生活

第Ⅴ期においては，台湾と香港を中心に中国大陸でも張愛玲の過去の作品が盛んに出版された．一方で，張愛玲は著作権を巡る問題に直面していた．印税交渉や出版に関するさまざまなトラブル，金銭の管理は，香港にいる宋淇夫妻が，張愛玲に代わって対応していた．当時，台湾と香港の出版界は不法出版が多く存在していた．数学者で，米国の大学で教鞭を執っていた経験がある唐文標が，1982 年に『張愛玲卷』（遠景出版事業公司），1984 年に『張愛玲資料大全』（時報文化出版事業有限公司）を出版した．張愛玲はどうすることもできず，知人友人に愚痴をこぼすことしかできなかった．これらの件に関する著作権問題で，起訴するかどうかについて，何度も宋淇と平鑫濤やそれぞれの出版社，編集人とのやり取りがあったが，張愛玲を大いに失望させた．香港と台湾では版権法が異なっていたので，この問題はさらに複雑化していた[155]．

慧龍出版で出版された『赤地之恋』については，契約書を紛失しており，責任者の逝去に伴い，登記を再度行う問題が残っていた[156]．

1983 年 8 月には，米国籍の中国人が，台湾で中国語の書籍を登記できないという問題が発生した[157]．そのため，張愛玲は米国籍の証明をもって，米国の北米事務所（台湾協会）や移民事務所に行って，手続きを行わなければならなかった．さらに，1984 年には U.S.I.A（United States Information Agency）の翻訳部がなくなり，当時の翻訳の著作権は，翻訳者に帰属することになった[158]．

遠景出版で不法出版された際には法的措置をとらなかったが，２度目の『張愛玲資料大全』に収録された５篇についてはあらかじめ内政部に事前登記していたので，発行停止及び回収を求めることができた[159]．

当時，中国大陸には版権の概念がなく，原稿料を一度だけ支払えば済むという慣習があった[160]．

この時期の経済状況については，次のようである．そもそも夫ライアーは（社会保障の支払い期間の）年数が少なかったために，１か月わずか 65 ドルの社会福祉金しか受け取れなかった．張愛玲も支払い年数が不足していたため，寡婦（未亡人）の立場であってもまったく受給できなかった[161]．

しかし，第Ⅴ期においては，張愛玲自身の自覚や認識は薄かったものの，米国生活の中で最も経済的

155）『往來書信集Ⅱ』（1983 年 1 月 20 日宋淇），p123.
156）『往來書信集Ⅱ』（1983 年 7 月 1 日宋淇），p166.
157）『往來書信集Ⅱ』（1983 年 8 月 22 日宋淇），p176.
158）『往來書信集Ⅱ』（1984 年 6 月 22 日宋淇），p219.（1984 年 7 月 10 日宋淇），pp224-225.
159）『往來書信集Ⅱ』（1985 年 2 月 9 日宋淇），p241.
160）『往來書信集Ⅱ』（1989 年 1 月 23 日宋淇），p358.
161）『往來書信集Ⅱ』（1990 年 2 月 15 日），p400.

に恵まれた時期であった．彼女の創作や翻訳作品の出版やテレビ・映画化，舞台化による収入が多かったからである．宋淇夫妻をはじめ，皇冠文化出版有限公司の平鑫濤，コロンビア大学教授の夏志清，国連通訳の荘信正，建築家林式同などが熱心に張愛玲を支援し，彼女を守っていた[162]．

1989 年 3 月 7 日に宋淇が張愛玲に述べる．「先週，皇冠出版から送られたあなた名義の印税と 3 枚の小切手を受領しました．今回は昨年の 11 月末までで年末ではないにもかかわらず，なんと 10,537 元あまりになっており，記録を破りました」[163] と書く．この高額な印税は，たとえば『短編小説集』が 30 版，『怨女』が 21 版，『半生縁』が 25 版に達するなど，小説集や小説の売れ行きが良かったためである．1989 年 9 月 15 日には，印税小切手 3 枚を添付し，『聯副』『太太万歳』の原稿料として 1,055 ドルとある[164]．

1991 年 4 月 14 日の書簡で，張愛玲は「――まさかそんなに貯蓄があったなんて，２，3 回見ても信じられません」と書いている[165]．出版に加え，『半生縁』『怨女』のテレビ上映や『紅玫瑰與白玫瑰』が映画化され，これら旧作のメディア化や，幾度も起こった張愛玲の小説ブームが彼女の収入を増加させた．

1990 年 1 月 11 日，宋淇は張愛玲に，「今期の印税は 2 枚の小切手で，5,000 ドルと 13,328 ドルを各 1 枚です．合計 18,328 ドルを彼女の米国の銀行に預けるように」と伝えている．また，最近『紅玫瑰與白玫瑰』の映画版権が売れて，純収入 15,000 ドルが得られたことを報告している[166]．1990 年 2 月 15 日には張愛玲は宋淇に対して，15% の手数料を受け取るように申し出ている．

宋淇は，財務管理状況を折々に詳細に愛玲に報告しており，1990 年には年収が 2 万ドルであると記した印税収入票を作成していた[167]．さらに，宋淇は ECU（欧州通貨），JPY（日本円），DEM（ドイツマルク）などの外貨運用も代行し，財務管理を担っていた[168]．

1994 年 2 月 22 日の書簡では，張愛玲が鄺文美に，歯のブリッジ治療や小切手の紛失などの件に加えて，『対照記』が 5000 ドルの原稿料であったことに驚愕したこと[169]，上半期の印税は 2 枚の小切手になっていて合わせると，8000 ドル以上になった，と伝えている．

張愛玲は米国で，Bank of America や Citi Bank など 6 つの銀行口座を持っていた[170]．

宋以朗によれば，愛玲の逝去後に林式同が残高を整理したところ，28,000 ドル以上の貯金が残されて

162）「生活実態」，pp73-75，pp85-86.

163）『往來書信集Ⅱ』（1989 年 3 月 7 日宋淇），pp361-362.「书信里的账簿」，p25.

164）『往來書信集Ⅱ』（1989 年 9 月 15 日宋淇），p373.

165）『往來書信集Ⅱ』（1991 年 4 月 14 日），p463.

166）『往來書信集Ⅱ』（1990 年 1 月 11 日宋淇），p391.（1990 年 2 月 15 日），p397.（1990 年 2 月 26 日宋淇），p404.「书信里的账簿」，p25.

167）『往來書信集Ⅱ』（1990 年 1 月から 11 月），p393.「书信里的账簿」，p24.

168）『往來書信集Ⅱ』（1990 年 5 月 1 日宋淇），p423.（1990 年 6 月 30 日宋淇），p430.（1990 年 12 月 24 日宋淇），p453.（1990 年 12 月 23 日宋淇），p454.（1992 年 4 月 5 日宋淇），p493.

169）『往來書信集Ⅱ』（1994 年 2 月 22 日），p517.「书信里的账簿」，p25.

170）宋以朗『宋淇傳奇－從宋春舫到張愛玲』牛津大學出版社，Oxford University Press，2014 年，p251.

いた[171]．荘信正によると，張愛玲は若い頃は服装に凝っていたが，荘と知り合った頃は非常に地味であり，住居は簡素で家具は素朴なものを好んでいた，という[172]．彼女は見栄を張ることなく，清貧に甘んじた生活を送っていた．張愛玲の晩年は，虫刺されによる影響もあったと推測されるが，質素で，トランクルームを使用し，必要最小限の物しかもたない簡素な生活を送っていた．

7．第Ⅴ期のまとめ

張愛玲の米国生活の第Ⅴ期は，上述のように様々な外圧にさらされ，肉体的・精神的な苦痛に苦しみながら，孤軍奮闘し，質素な生活スタイルを続けていた．一方で，63 歳から 75 歳にかけて，彼女の米国生活の中で経済的には最も豊かな時期であった．

張愛玲の過去の小説や翻訳作品は引き続き出版されたものの，新作の発表はほとんどなかった．その理由として考えられるのは，5 年にわたる虫刺されによる皮膚病，現代医学でいうリケッチアによる病，そして慢性的な体調不良のために定住できず，モーテルを転々とする不安定な生活が原因であると考えられる．

米国第Ⅴ期の張愛玲の創作活動は，極めて少なく，エッセイ数編と写真集を発表するにとどまった．この時期は，彼女の創作人生において最も寡作な時期となった．しかし，1994 年 6 月に出版された回顧写真集『対照記－看老照相簿』（皇冠文化出版有限公司）は，同年 9 月に中国時報文学賞特別功労賞を受賞している．

写真⑧

1995 年 9 月，75 歳の張愛玲がひとりアパートの一室で亡くなっているのが発見された．彼女が 1991 年 7 月から住んでいたのは，UCLA に近いロチェスター街にあるアパート（Rochester Ave., Apt #206, LA，CA10911）であった．発見時，机の上には修正中の長篇小説『小団円』が広げられていた．彼女はこの作品の修正に非常にこだわり，何度も書き直していた．自伝的小説の意識をもって執筆されたこの作品は，彼女の人生の重要な側面を反映している．司法解剖による死因は，「動脈硬化性心血管病」（Arteriosclerotic Cardiovascular Disease）であった．

Ⅶ．おわりに

張愛玲は，1920 年から 95 年までの人生を大きく二分し，前半生 35 年間を中国大陸で，後半 1955 年からの 40 年間を米国で過ごした．米国生活では病気の夫ライアーを介護しながら，生計を立てる必要

171）宋以朗『宋淇傳奇－從宋春舫到張愛玲』, p251．pp253-254．28107.71 ドル．「扣除後身後事費用是一萬七千美元左右」．鈴木基子，2020 年度学位論文，p24.

172）荘信正『張愛玲來信箋註』（1983 年 11 月 5 日荘 61 註解），p147.「生活実態」，p91.

があり，有期の翻訳を含む執筆活動を行いながら，米国各地を転々とした。一方で，在米華人作家の林語堂（1895―1976 年，文学者，翻訳家，作家，評論家）のように英語での著述に成功することを目指し，複数の自伝的小説や英文小説を執筆したが，米国出版界からは冷淡な反応を受け，出版拒否が相次いだ．この出来事は，張愛玲にとって大きな衝撃となった．

張愛玲が米国で大量の翻訳を手がけながら，中国語での創作活動を台湾や香港で展開したことは，経済的な理由による選択でもあったが，何よりも「小説を書いて身を立てたい」という彼女の根本的な願望を実現するための道であった．期間限定の仕事や翻訳には関心を持ち熱心に取り組んでいたが，それは本意ではなく，創作活動こそが彼女の本懐であった．

台湾や香港の複雑な出版界では，不法出版に悩まされることがあったが，張愛玲ブームが起こり，多くの読者を得たことは，彼女にとって大きな救いであった．一方で，以前に拙稿で対象とした書簡からも，複数の在米華人が陰ながら彼女に多大な支援をしていたことが伺える．何よりも張愛玲は宋淇夫妻を信頼し，経済的なことをすべて一任していた．

一般的には，張愛玲は米国で寡作の作家と見られていたが，実際には多くの未出版作品があり，映画シナリオや翻訳も多数手がけていた．翻訳を除く彼女の創作のほとんどは，旧作の改編や映画シナリオ，清朝の四大名著のひとつの白話小説『紅楼夢』の研究，清末の呉語白話小説『海上花列伝』の標準語訳と英訳，自伝的小説三部作などであり，これらは主に中国の伝統文化や社会，人間模様を描いていた．米国に 40 年近く居住していたにもかかわらず，米国を舞台にした作品はほとんど見当たらない．彼女の本意は，熟知していた中国の旧社会を描くことにあった，とも考えられる．また，彼女の身体的・精神的苦痛が，新しい異国の環境での創作よりも，彼女自身の血肉となった中国を舞台にした作品作りを選ばせたのではないか，とも考えられる．

張愛玲を苦しめた病気について，彼女の逝去後の 2013 年に，医師の呉佳璇が「心身症」と診断した．その後，「皮膚寄生虫妄想」が推察された．2020 年 8 月，魏可風による新たな分析結果として，長年の体調不良や虫刺されによる皮膚疾患がリケッチア（細菌感染症）説によって説明される可能性が明らかになった．当時は，リケッチアの治療に使用できる抗生物質がほとんどなく，米国の医療制度の事情もあり，治療が難しかった．死因は解剖により「動脈硬化性心血管病」と判明した．

人生後半の米国生活 40 年のうちはじめの 10 数年は夫の介護があり，経済的に厳しい環境の中にあったが，晩年の 10 数年間はかなり高額な収入を得て，親族への経済支援も行った．しかし，自らは当初からの質素な生活スタイルを変えることなく，孤立性と隠遁性の高い執筆生活を貫いたことは特筆すべき点である．彼女の生き方や作品には，後世が注目すべき思考や信条が含まれているとの評価もある．張愛玲の遺産は，遺言通りに香港の宋淇夫妻に渡ったが，あまりにも多額だったため，張愛玲の翻訳援助，香港大学の文学部及び人文学部の学生奨学金や国際シンポジウム開催，学会開催などに使われている[173]．宋淇夫妻亡き後は，子息の宋以朗[174] が後継となった．

173) 宋以朗『宋淇傳奇－從宋春舫到張愛玲』牛津大學出版社，Oxford University Press，2014 年，pp254-256.

174) 宋以朗（Roland Soong 1949-）ニューヨーク州立大学を卒業し，米国で 30 年生活する．統計学博士．2003 年に香

冒頭で述べたように，拙稿の目的は，張愛玲の 40 年にわたる米国での生活とその背景を再確認しつつ，新たに判明した事実や修正点を加えることである．それにより，彼女の病状の変遷や執筆活動と出版界の裏側，そして経済状況の変化が相互に及ぼした影響がより明確になり，彼女の作品の評価や人生観の再評価が進められるであろう．

文中の写真①から⑧は ,2005 年秋から 2006 年春にかけて , すべて筆者が米国で撮影したものである．

① ニューハンプシャー州にあるマクドウエル・コロニー滞在時の張愛玲の仕事小屋
② サンフランシスコで夫ライアーと居住した Bush Street にあるアパート
③ ボストン近郊，ケンブリッジのラドクリフ・インスティテュートで働いていた時に居住したアパート
④ 研究員を勤めたカリフォルニア大学バークレー校（University of California, Berkeley）
⑤ 10 年以上定住したハリウッドの Kingsley Drive にあるアパート
⑥ 転居を繰り返した時期に宿泊したモーテルのひとつ
⑦ 皮膚の病が治った後に住んだ林式同が建てた Lake Street にあるマンション
⑧ ロサンゼルスの Rochester Avenue にある最後の住み家となったアパート（右の建物）

本論は 2022 年度特別研究員（サバティカル）の成果の一部である．

港に戻り，「東南西北博客」zonaeuropa.com を創立する．翻訳家，紅楼夢研究者，張愛玲研究者．